TechnoVeins

Prescription Label Maker for TM-L90

処方箋用　薬ラベル発行プログラム

取扱説明書

目次

安全にご使用いただくために

- **本製品を安全に正しくご使用いただくために、接続および設置を含めてご使用前に本取扱説明書 以後、本書とします）を必ずお読み下さい。**
- 本書はお読みになった後で、いつでも見られる所に保管してください。

⚠ 警告

- 故障または煙が出たり、変な臭いや異音がするなどの異常が起きたときには、すぐに使用をやめてください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
- 本書で指示されている部分以外の分解や改造はしないでください。けがや火災、感電あるいは故障の原因となります。
- 雷が発生しているときにはすぐに使用をおやめください。また、本製品の設置およびケーブル類の取付作業を行わないでください。感電の原因となります。
- 本製品の内部に異物や水などの液体を入れないでください。火災や感電の原因となります。
- 水などの液体がかかるおそれがある場所、湿気やほこりの多い場所には設置しないでください。火災や感電の原因となります。
- 破損したり落としたりした場合は使用をやめてください。火災や感電の原因になります。
- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを加工したり、傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。破損して、火災や感電の原因となります。
- 電源ケーブルのプラグはほこりなどの異物が付着していないことを確認してから根元までしっかりと差し込んでください。火災や感電の原因となります。
- 電源アダプタを使用するときは、添付の電源アダプタまたは指定されているものをお使いください。他の電源アダプタを使用すると火災や感電の原因となります。
- 電源アダプタの上にものをのせたり、かぶせたりしないでください。火災や感電の原因となります。
- 本製品の電源アダプタは指定以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意
• ぐらついた台や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。落ちてけがをしたり、故障により火災や感電の原因となります。 • 移動の際に金属やプラスチック部分に異常が発生した場合には電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。 • 製品の一部もしくは全体が、通常の使用の際に比べ、異常な発熱を伴う場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。故障や火災の原因となります。 • 接続ケーブルの上には重いものを載せないでください。また、熱器具に近付けないでください。ケーブルの被覆が破れ火災や感電の原因になります。 • 電源ケーブルを抜くときは、コードの部分を引っ張らないでください。断線または短絡して、火災や感電の原因となります。 • 本製品を長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。 • 本製品は、病院や医療機器などの人命に関わる設備で、人命に関わる機器との併用はしないでください。高度な信頼性を必要とする設備や機器に影響を与えることも考えられます。

記号について

⚠ 警告	⚠ 注意
この内容を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容、データなどの情報損失を起こす可能性が想定される内容を示しています。

1　製品紹介

1.1　機能

本システムは Windows パソコンとラベルプリンタ TM-L90 を用いた処方箋添付用医薬品ラベル発行システムです。

医師によるカルテ作成の際に、公開データベースのデータから薬名を取り込むことで記載ミスなどを減らすことができます。

Windows XP とラベルプリンタのみで動作するため、レセプトシステムなど既存の医療システムとは切り離した状態で、簡単に使用を開始することができます。

ラベル発行に限定してあるため、簡単に操作できます。

1.2　商品内容

下記が商品に含まれます。

処方専用ラベル発行プログラム　PSLM(Prescription Label Maker) for TM-L90

EPSON ラベルプリンタ TM-L90

また、下記の感熱ラベルロールを使用します。

EPSON　TRL080-904　(76×101.6mm)　または同等品

1.3　動作環境

Windows XP　(.NET Framework1.1)の動作する PC

※USB コントローラについて、ドライバの制限を参照のこと

メモリ 256MB 以上　(512MB 以上を推奨)

HDD80GB を推奨

1024*768 XGA 以上の解像度モニタ

1.4　医薬品マスタデータ

本システムではマスタデータとして下記の Web にて公開された 2 種類の医薬品データを利用します。

本システムは下記医薬品データ1で規定された医薬品コード（同 Web での名称）を基準コードとして用いています。本システムのデータベースは、基準コードで連携しています。

医薬品データはお客様ご自身がダウンロードしてシステムに登録してください。

（今回のシステムでは読み込んであります。）

※　Web サイトからダウンロードした医薬品データ、およびそれを読込んだデータベースの再配付は行わないでください。

各医薬品データについては各 Web での規定を参照の上ご利用ください。

1.4.1　医薬品データ1

厚生労働省保険局　診療報酬情報提供サービス　医薬品マスター

（2006 年 3 月 28 日版の書式を基準に作成しています。）

一般的に本コードは厚生省レセプト電算処理に用いられている9桁のコードです。用量の単位は、本データのそれぞれの医薬品で指定されたものを使用しています。

また、本データから医薬品の基本情報を取得しています。

1.4.2　医薬品データ2

（財）医療情報システム開発センター(MEDIS-DC) 標準医薬品マスター

（2006 年 3 月 1 日版の書式を基準に作成しています。）

本医薬品データ2は、医薬品データ1で示されたレセプト電算処理のコードと関連付けられた以下の医薬品コード体系とのリンクを保持します。

1. HOT13
   MEDISにおける13 桁の医薬品標準化コード
2. HOT7
   MEDISにおける7 桁の医薬品標準化コード
3. JAN　流通バーコードで登録されている13 桁の商品販売用コード
4. 薬価基準収載医薬品コード（厚生省１2桁コード）
   薬価単位に設定されている１2桁のコード。
5. 個別医薬品コード
   薬価基準収載医薬品のうちで一般名収載等の場合において、上記の薬価基準収載医薬品コードを細分類した１2桁のコード。

本システムでは上記コード連携から、医薬品名の読み出しに対応しています。

また、同医薬品データから薬剤単位などをの補助情報を取得しています。

2　インストール

インストールはプリンタのインストールとPSLM プログラムのインストールを行います。

プログラムとあわせて初期データが提供されている場合、プログラムをインストールした際に生成された、データベースの初期ファイルを提供データへ変更します。

2.1　プリンタドライバの制限

本ドライバは使用できるUSB コントローラに制限があります。詳細は、本製品に添付されたTMCOMUSB Serial Emulation Driver に付属のマニュアルを参照ください。

制限事項について、下記に一部抜粋します。

```
２TMCOMUSB 動作環境
----------------------
2.1 動作 OS
  ・Microsoft Windows 2000 Professional Service Pack 4
  ・Microsoft Windows XP Professional Service Pack 2 (32Bit OS のみ)
  ・Microsoft Windows 2003 Server Service Pack 1 (32Bit OS のみ)

 ※ Intel ハイパースレッディングテクノロジーに対応していません。
   BIOS 設定等で ハイパースレッディングテクノロジーを OFF にしてお使いください
 ※ 64bit OS には対応していません。

2.2 動作 USB ホストコントローラ
  ・INTEL 製 チップセット組み込みの USB ホストコントローラ
  ・NEC 製 EHCI USB ホストコントローラ

 ※ NEC 製 USB 1.1 用 の OHCI ホストコントローラでの動作は保証していません

2.3 動作 USB ドライバスタック
 マイクロソフト製(OS 標準)の ドライバスタックをお使いください。また、マイクロソフト製の USB
ドライバスタックはできるだけ最新のものをご使用ください。
 サードパーティ製の USB ドライバスタックでの動作は保証していません。
```

テクノベインズでの社内テストでは、動作 USB ホストコントローラとして上記以外に VIA 社、SiS 社の USB ホストコントローラでの動作を確認しました。

2.2 プリンタのインストール

最初に USB 用のプリンタドライバをインストールします。

シリアルインターフェース（COM）タイプの TM-L90 をご利用される場合は、この項目は必要ありません。シリアルインターフェースタイプの TM-L90 を使用する場合、PC の COM ポートへ直接接続します。（指定クロスケーブルを使用してください。）

接続した COM ポート番号は、後ほどインストールする PSLM プログラムインストール時に使用するために、記録しておいてください。

2.2.1 EPSON TMCOMUSB Serial Emulation Driver

PSLM は TM-L90 を ESC/POS により制御し、ラベル印刷を行います。

本ドライバをインストールすることで、USB インターフェースの TM-L90 を PSLM ソフトウェアから仮想 COM としてコントロールします。

本ドライバをインストールする後半で、TM-L90 を接続し設定する必要がありますので、あらかじめプリンタおよびドライバの両方の準備をしてからドライバのインストールを開始してください。

2.2.2 TM-L90 の準備

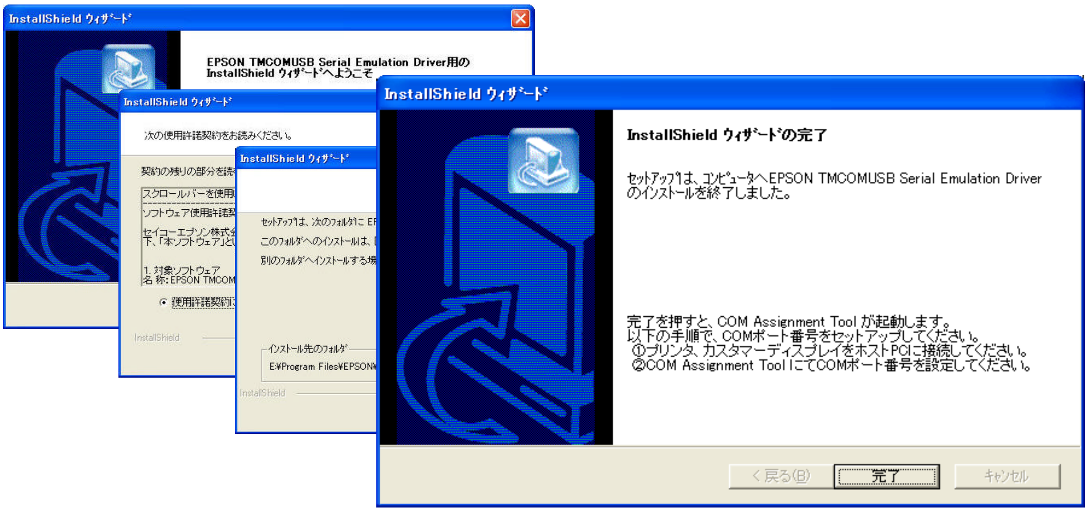
ドライバをインストールする前にプリンタの準備を行います。

電源を入れずに、PC にプリンタの USB ケーブルを接続してください。（ドライバインストール前にプリンタの電源を入れると、プリンタに対する Windows のプラグアンドプレイが始まってしまうため、ドライバインストール終了までは必ずプリンタの電源を OFF にして接続してください。）

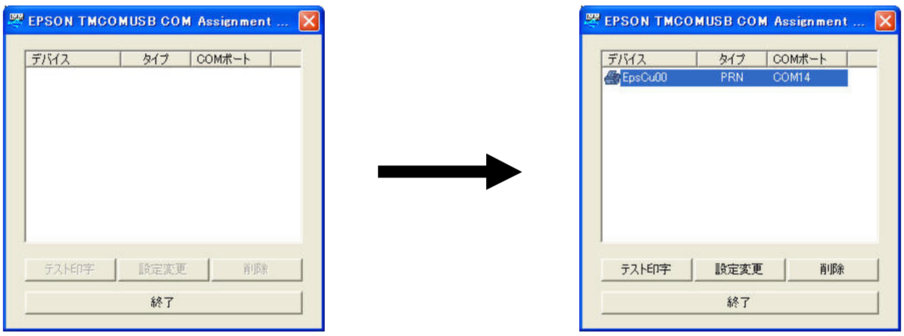
ただし、TM-L90-101（USB インターフェース）はプリンタ内部にバスパワーで動作する USB ハブ IC が内蔵されているために、プリンタの電源が OFF であっても汎用 HUB としての認識に行きます。（正常動作です。）

2.2.3　EPSON TMCOMUSB Serial Emulation Driver のインストール

本製品に添付された TMCOMUSB Serial Emulation Driver をインストールします。



インストールが終了すると、下記の COM ポート番号セットアップダイアログが自動的に表示されます。この状態では、まだプリンタが認識されていないために何も表示されません。
この状態で、PC に接続している TM-L90 の電源を ON します。

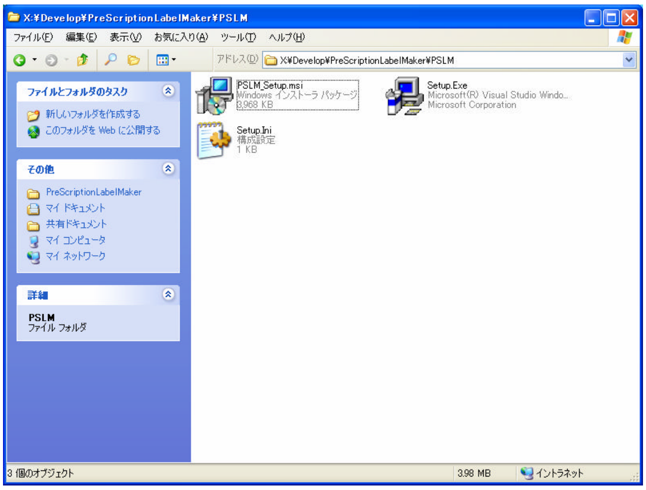


接続されたら、その際に表示される COM ポートに表示される COM 番号を控えておいてください。
PSLM インストールの際に必要となります。

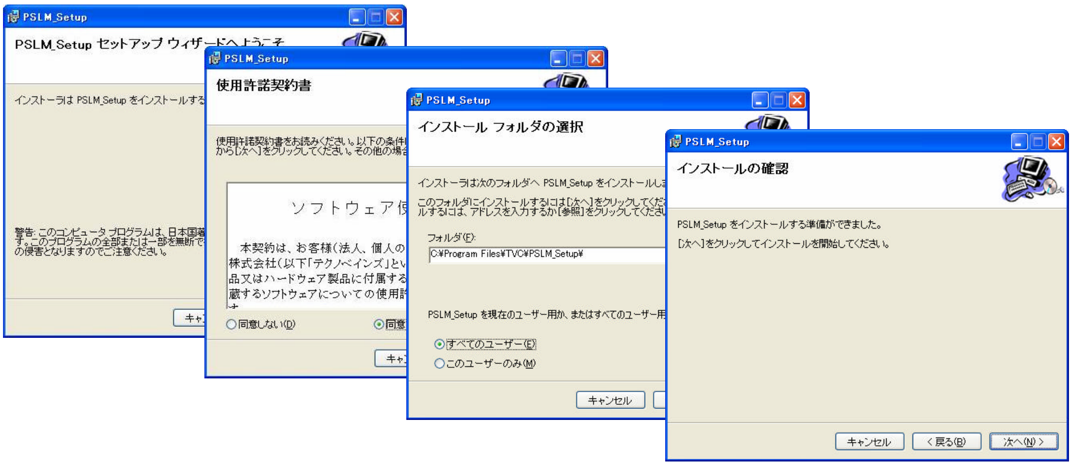
プリンタに用紙をセットして、テスト印字を行いテスト印字されればドライバのインストールは完了です。終了ボタンで終了してください。

2.3 処方箋添付用医薬品ラベル発行プログラム PSLM のインストール

ドライバのインストールを行った後、PSLM をインストールします。



Setup.Exe を実行することで、PSLM のインストールを実行します。



2.3.1 PSLM 実行環境

※ PSLM の実行には.NET Framework1.1 環境が必要です。

※ .NET Framework1.1 に対応していない場合、マイクロソフト社 Windows Update にて対応できます。

※ Windows XP 以前の OS でも、.NET Framework1.1 を対応することで PSLM を使用することができます。

※ .NET Framework1.1 についてはマイクロサイトの Web を参照してください。
http://www.microsoft.com/japan/msdn/netframework/

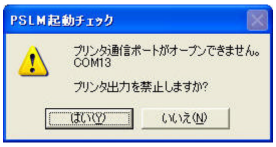
2.3.2 PSLM ショートカット

インストール終了後は、インストール時に設定したフォルダのほか、スタートボタンおよびデスクトップに PSLM の実行ショートカットアイコンが生成されます。



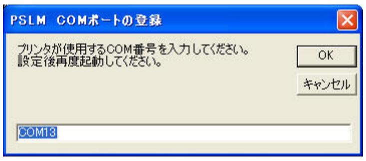
2.3.3 COM 番号の設定

最初の起動時や初期設定ファイルで指定されたプリンタ通信ポート(COM)が見つからない場合、下記ダイアログが表示されます。



「はい」を選択すると、プリンタ機能を OFF にして PSLM を実行します。

「いいえ」を選択すると、下記ダイアログが表示され、新しい COM 番号の登録を要求されます。

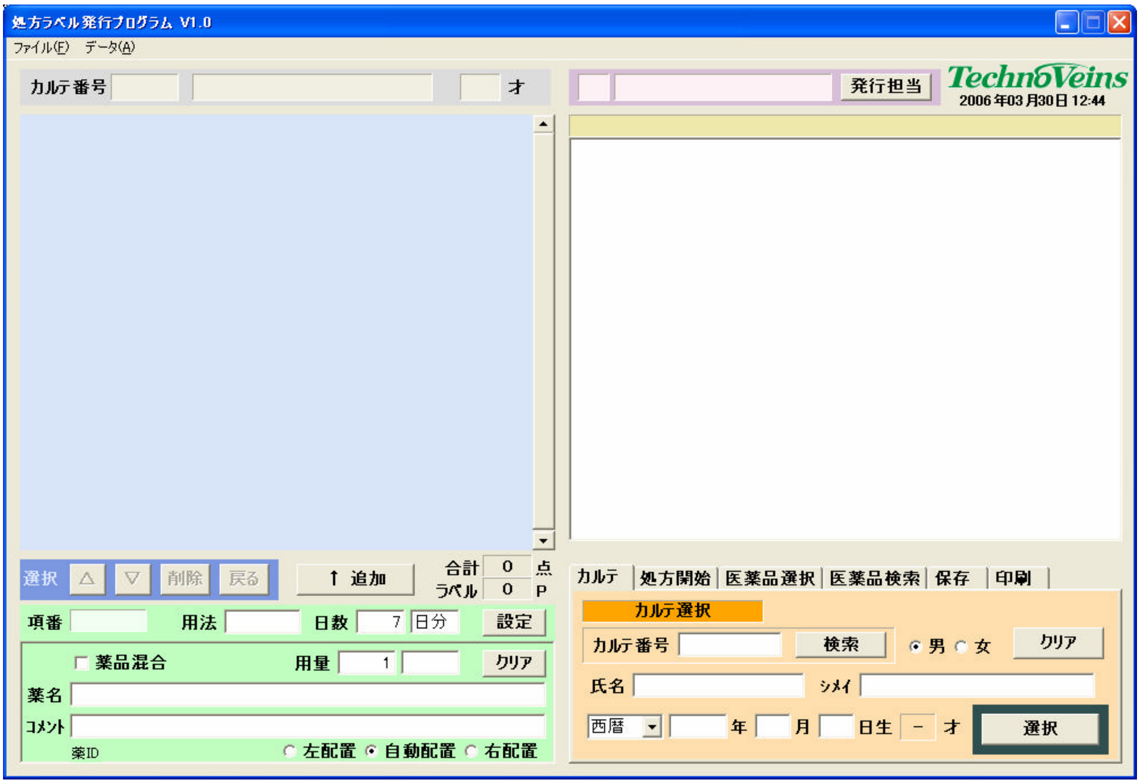


ポート番号はシリアルインターフェースや TMCOMUSB Serial Emulation Driver で TM-L90 に割り当てられた COM ポート番号を設定します。
新しい COM 番号設定後は、PSLM を一旦終了します。再度 PSLM を実行してください。

ここで設定したポート番号は PSLM.INI に記録され、次回以降自動的に COM ポートが割り当てられます。以降のポート番号変更は、メモ帳やテキスト編集ができるエディタなどで PSLM.INI を直接編集します。

3　PSLM の概略操作

3.1　PSLM 起動画面



- パープル :ラベル発行担当者
- オレンジ :メニュータブによりPSLM の機能を選択します。
- グレー :カルテ情報カルテ番号登録を行うと、カルテ情報が表示されます。
  登録されると、カルテ情報の背景色は男性はブルー、女性はピンクに変化します。
- イエロー :リストには設定関連の情報が表示されます。データによって、クリックすると緑の処方ボックスへ入力されます。
- グリーン 処方入力ボックスではラベル情報を入力や変更を行います。
- ライトブルー 処方された医薬品は処方医薬品リストに登録されます。

3.2　プログラムの終了方法

プログラムはメニューのファイル→終了　もしくは画面右上の[X]ボタンで終了できます。

3.3　操作の流れ

通常のラベル発行操作は以下の手順で行います。

1. 「**発行担当**」ボタンによるラベル発行担当者の選択
2. 「カルテ」メニュータブから「カルテ番号」の登録
3. 処方初期データの選択
クリア、履歴もしくは標準処方
4. 医薬品の追加・削除・変更
検索もしくは医薬品コードによる登録
5. 「印刷」メニュータブからラベルの発行
印刷を行わない場合は、「保存」メニュータブによる履歴保存

3.4　ユーザーデータの新規登録操作

3.4.1　発行担当者登録

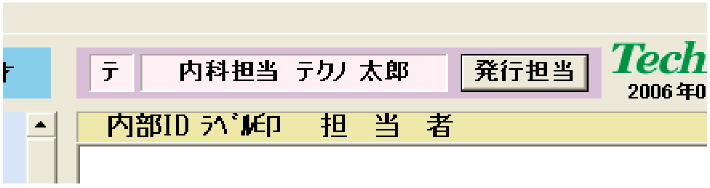
パープルの発行担当者エリアの発行担当者名が表示される位置（「発行担当」ボタンの左側枠）をクリックすると担当者登録が行えます。

3.4.2　新規カルテ情報登録

カルテ情報は、「カルテ」メニュータブから「カルテ番号」を選択し、必要な情報を入力し、「選択」ボタンで登録できます。
カルテ番号を入力しないで「検索」ボタンを押すと、現在登録されたカルテ番号を検索し、最後のカルテ番号＋1の新規カルテ番号が表示されます。
すでに登録済みのカルテ番号を指定し、登録を行うと、既存データの更新を行います。
新規のカルテ番号を指定し、登録を行うと、新規カルテデータとして登録を行います。

4　各機能の操作詳細

4.1　担当者登録



4.1.1　担当者新規登録

パープルの発行担当者エリアの発行担当者名が表示される位置（発行担当」ボタンの左側枠）をクリックすると担当者登録が行えます。

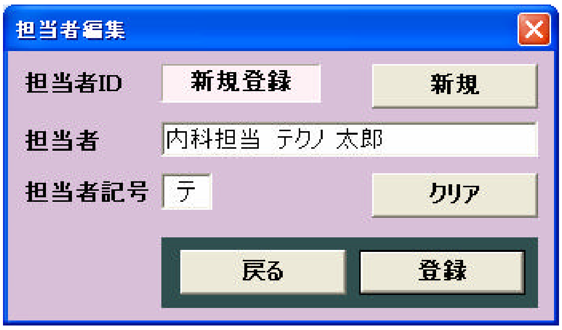
新規」ボタンで新規登録できます。

担当者 ID :内部管理番号です。（ユーザー変更はできません。）

担当者名 :担当部署、氏名等を入力します。主に画面表示用です。

担当者記号:ラベル印刷時に発行担当者としてラベル下の印字管理情報に印字されます。

全角 1 文字(半角 2 文字)



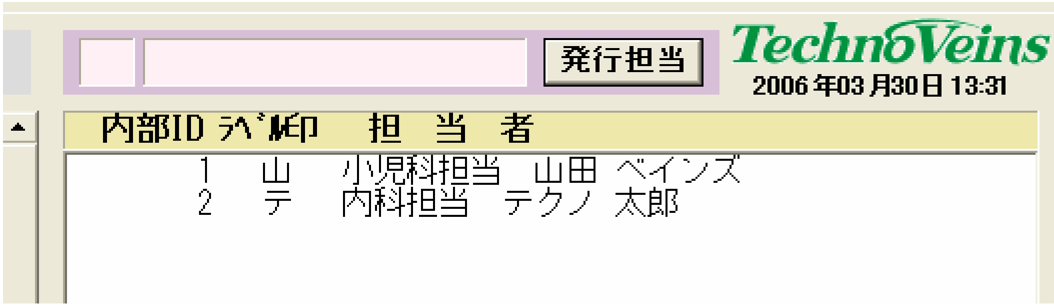
4.1.2　担当者内容の変更

担当者を選択した状態で発行担当者名（発行担当」ボタンの左側枠）をクリックすると選択した担当者の情報を変更できます。

担当者 ID が表示された状態で、クリア」ボタンで担当者、担当者記号を削除し、登録すると、担当者は削除されます。

戻る」ボタンにより、変更を行わずに終了できます。

4.1.3　ラベル発行担当者の選択

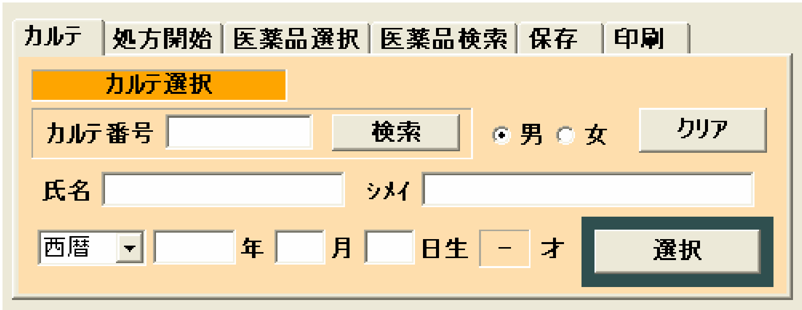


「発行担当」ボタンで、登録されているラベル発行担当者一覧が表示されます。

表示リストから選択する担当者をクリックすると、担当として選択されます。

担当者選択は別の担当者が選択されるまで、プログラム実行中は保持されます。

4.2 「カルテ」メニュータブ



「カルテ」メニュータブによりカルテ番号を入力します。

PSLM ではカルテ番号により患者のデータを管理します。

カルテ番号は最大 5 桁の数値に対応します。

4.2.1 「男」、「女」チェックマーク

いずれか一方の性別を指定します。

4.2.2 氏名入力ボックス

「氏名」は姓、名を 1 文字空白を入れて登録することを推奨します。

「氏名」で登録された情報は、印字ラベルの印字管理情報部分に印字されます。

「ｼﾒｲ」は氏名の半角読み仮名でｾｲ、ﾒｲ 1 文字空白を入れて登録することを推奨します。

4.2.3 誕生日

誕生日は西暦、和暦いずれでも入力できます。

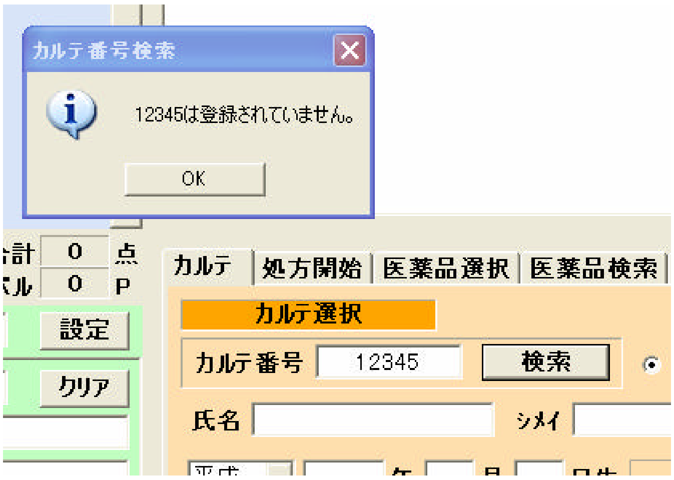
4.2.4 カルテ情報「クリア」ボタン

「クリア」ボタンはカルテ番号、氏名、ｼﾒｲ誕生日欄の入力を削除します。

4.2.5　検索」ボタンによる登録カルテ情報の検索表示

カルテ番号を入力して 検索」ボタンで登録カルテ情報を検索して表示します。

見つからない場合は、ダイアログが表示されます。

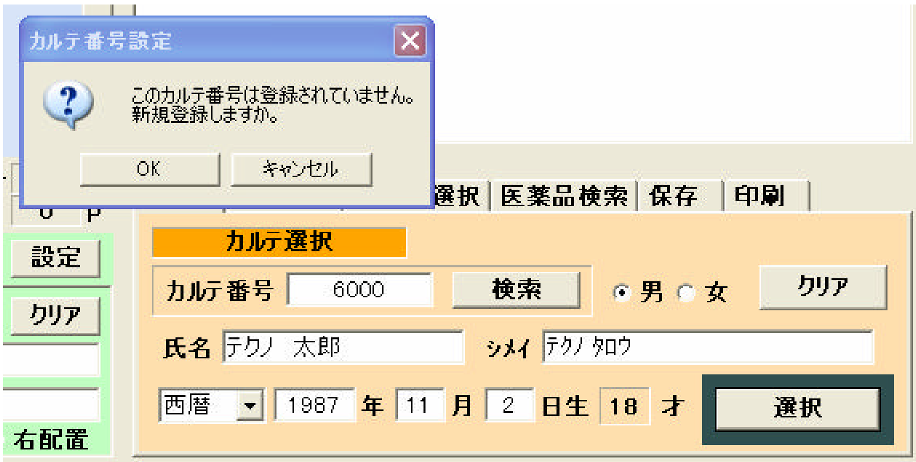


4.2.6　新規カルテ番号の検索

カルテ番号を入力しないで 検索」ボタンを押すと、現在登録されたカルテ番号を検索し、最後のカルテ番号＋１の新規カルテ番号がカルテ番号枠に表示されます。

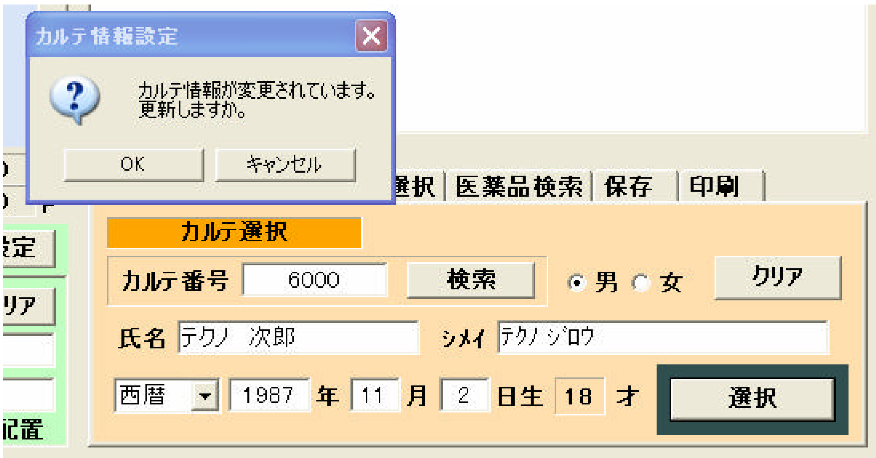
4.2.7　新規カルテ情報の登録

新規のカルテ番号を指定し、 選択」ボタンを押すと、新規カルテデータとして登録を行います。



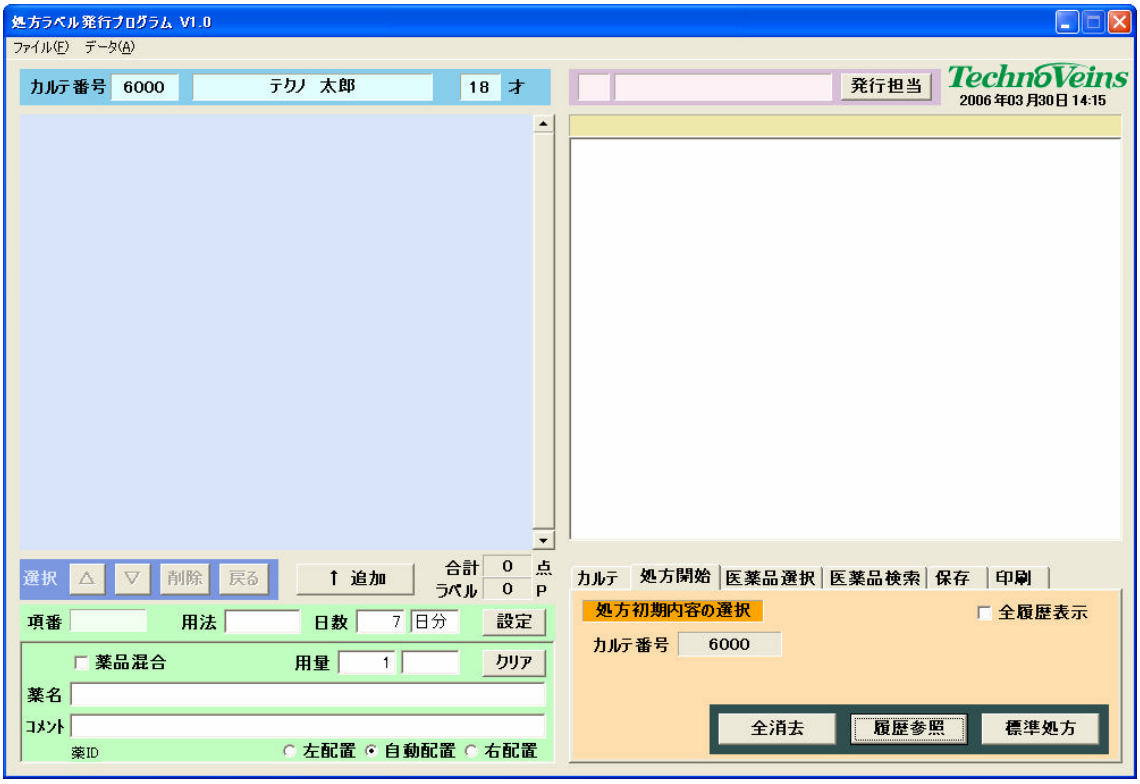
4.2.8　既存カルテ情報の更新

　すでに登録済みのカルテ番号を指定し、内容を変更して 選択」ボタンを押すと、既存データの更新を行います。

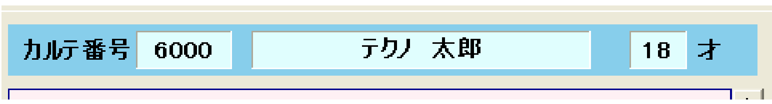


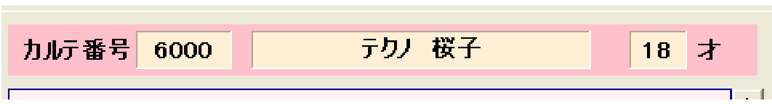
4.2.9　カルテ情報の登録

カルテ情報が登録されると、画面左上のカルテ情報に表示されます。メニュータブが自動的に「処方開始」メニュータブに切り替わります。



カルテ情報は男性のカルテの場合、ブルーに女性のカルテの場合、ピンクに色分けされ、見やすく表示されます。





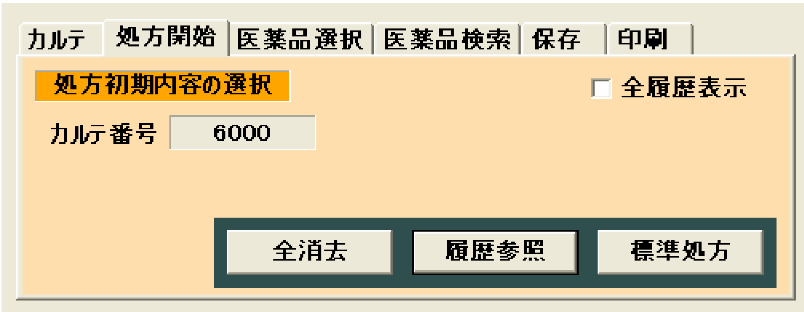
4.3　処方開始」メニュータブ

処方開始は以下の 3 つの状態が選択できます。

また、処方入力を開始した後であっても、処方開始」メニュータブを選択することで、処方状態を最初から選択することができます。

初期状態を選択した後は、処方医薬品リストに追加や削除、変更を行います。

追加は医薬品選択または医薬品検索で行います。



4.3.1　全消去」ボタン

登録されている処方リストをすべて削除します。

4.3.2　履歴参照」ボタン

このカルテ番号で過去に登録された処方ラベルの登録履歴の一部をリスト表示します。

全履歴表示」チェックボックスを ON にするとデータベースの保存されている、このカルテ番号で過去に登録された処方の履歴をすべて表示します。

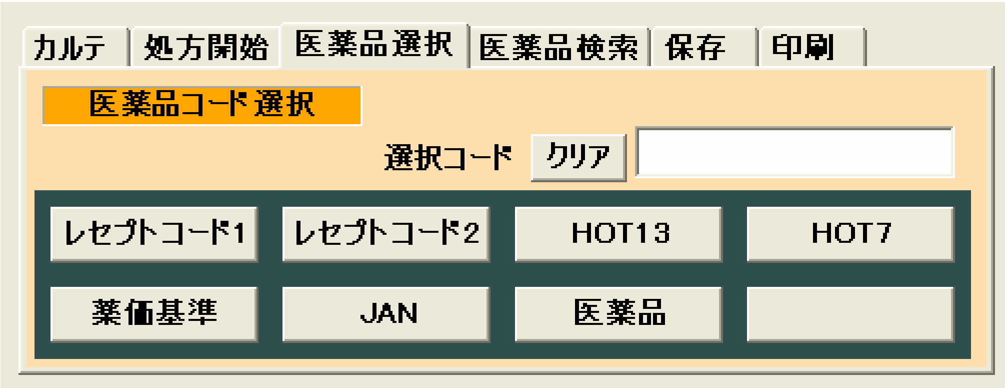
リストは下に行くほど古いデータとなり、一番上が最後に発行されたラベルの履歴となります。

履歴のリストをクリックすると、履歴データが処方医薬品リストに表示されます。

4.3.3　標準処方」ボタン

このカルテ番号について、履歴保存もしくはラベル印刷時に標準処方として登録されたデータを処方医薬品リストに表示します。

4.4　「医薬品コード選択」メニュータブ



「医薬品選択」メニュータブでは、医薬品のコードを直接入力して医薬品を選択します。
「クリア」ボタンは入力した選択コードを削除します。

4.4.1　「レセプトコード1」ボタン

9 桁のレセプト電算処理のコードにより医薬品を指定します。

4.4.2　「レセプトコード2」ボタン

9 桁のレセプト電算処理のコードにより医薬品を指定します。

レセプトコード1で対応していない場合、レセプトコード2で登録されている場合があります。

4.4.3　「HOT 13」ボタン

MEDISにおける 13 桁の医薬品標準化コードにより医薬品を指定します。

4.4.4　「HOT7」ボタン

MEDISにおける 7 桁の医薬品標準化コードにより医薬品を指定します。

4.4.5　「JAN」ボタン

流通バーコードで登録されている 13 桁の商品販売用コードにより医薬品を指定します。

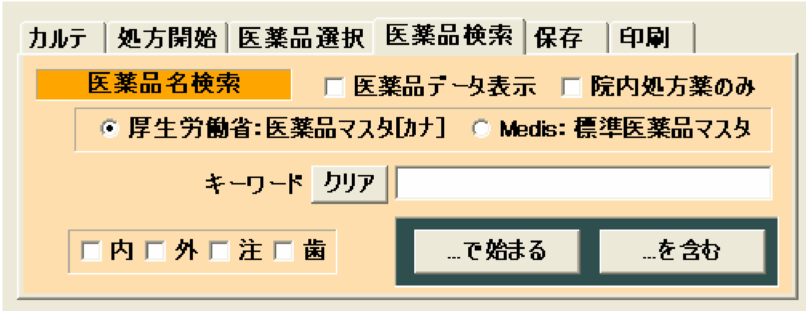
4.4.6 「薬価基準収載医薬品コード」ボタン

薬価単位に設定されている１2桁のコードにより医薬品を指定します。
本コードは厚生省１2桁コードと呼ばれることもあります。

4.4.7 「個別医薬品コード」ボタン

薬価基準収載医薬品のうちで一般名収載等の場合において、上記の薬価基準収載医薬品コードを細分類した１2桁のコード。により医薬品を指定します。

4.5 医薬品名検索」メニュータブ



医薬品の名称（の一部）を入力し、検索することで該当する医薬品名をリスト表示します。

4.5.1 キーワード入力ボックス

検索を行うキーワードを指定します。

検索は全角名称で登録された名称検索で行います。

4.5.2 「...で始まる」ボタン

科目別フィルタ（内外注歯チェックボックス）で指定された医薬品データのうち、キーワードで指定された名称から開始される医薬品をリストに表示します。

4.5.3 「...を含む」ボタン

科目別フィルタ（内外注歯チェックボックス）で指定された医薬品データのうち、キーワードで指定された名称を含む医薬品をリストに表示します。

4.5.4 院内処方薬のみ」チェックボックス

院内処方薬にチェックすると、リスト検索対象を院内処方薬として登録されたマスタデータに制限します。また、この場合、キーワードを入力せずに検索することが可能となり、その場合、いずれかの検索ボタンを押すと、すべての医薬品がリスト一覧表示されます。

4.5.5 クリア」ボタン

入力したキーワードをクリアします。

4.5.6 「内」チェックボックス

これをチェックすることで、内科用処方薬としてマスタ登録されている医薬品をリスト対象にします。

4.5.7 「外」チェックボックス

これをチェックすることで、外科用処方薬としてマスタ登録されている医薬品をリスト対象にします。

4.5.8 「注」チェックボックス

これをチェックすることで、注射用処方薬としてマスタ登録されている医薬品をリスト対象にします。

4.5.9 「歯」チェックボックス

これをチェックすることで、歯科用処方薬としてマスタ登録されている医薬品をリスト対象にします。

※ すべてのチェックボックスを OFF にした場合、科目別フィルタ機能は停止し、すべてが検索対象となります。（すべて ON と同じ効果になります。）

4.5.10 検索データベース切り替えチェックボックス

2 種のデータベースを切り替えて検索します。

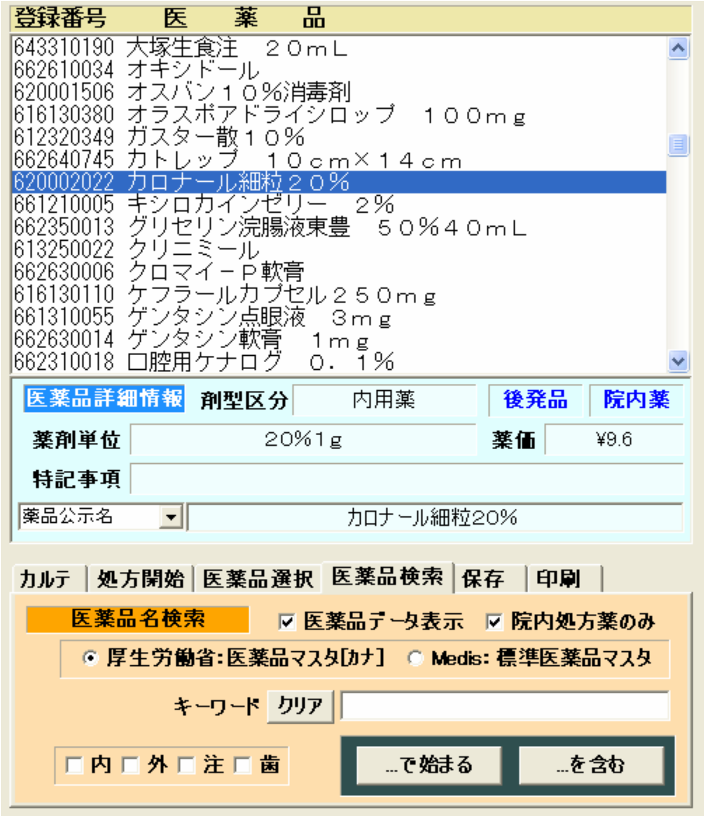
データベースのより登録名称が異なる場合がありますので、見つからない場合などに切り替えます。

※ データベースに登録されているすべての医薬品をリストに表示するには、「院内処方薬のみ」チェックボックスを OFF にして、検索キーワードとして%を指定して検索を行います。ただし、医薬品データは 4 万件以上と非常に大きいため、メモリリソースを大量に消費しますのでご注意ください。

4.5.11 医薬品データ表示チェックボックス

リストの下部に医薬品の詳細情報を表示します。

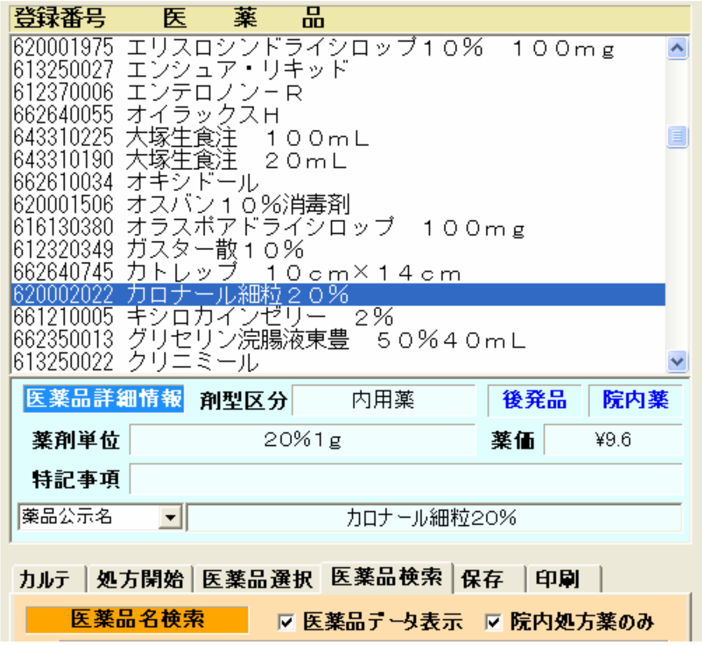
リスト表示から選択した医薬品の情報を登録データベースから検索し、表示します。



4.5.12 医薬品リスト

医薬品名検索で指定された医薬品コードと名称が、医薬品名読み順で一覧表示されます。

4.6　医薬品詳細情報



医薬品名検索メニュータブで医薬品データ表示チェックボックスにチェックされている場合に表示されます。

※処方入力ボックスの薬 ID 表示のクリックでも、詳細情報の表示ができます。

医薬品名リストで選択した医薬品の情報をデータベースから検索して表示します。

医薬品詳細を表示することで、薬剤単位情報や特記事項などが表示され、処方の際の参考情報となります。

4.6.1　剤型区分

データベースの剤型区分に登録された、薬の区分を表示します。

4.6.2　後発品」表示

選択した医薬品が、データベースで後発品として指定されている場合、後発品表示が表示されます。

4.6.3　院内薬」表示

選択した医薬品が、院内約として指定されている場合、院内薬表示が表示されます。

4.6.4 「薬剤単位」表示

データベースの「薬剤単位」に登録された、薬 1つの単位を表示します。

4.6.5 「薬価」表示

データベースの「薬価」に登録された、薬価（円）を参考表示します。

薬価は定期的に変更されますので、読み込んだデータベースが古い場合などは実際の薬価とは異なる場合がありますので、参考程度にご使用ください。

4.6.6 「特記事項」表示

データベースで**特記事項が指定されている場合に表示されます。**

特記事項には以下の項目があります。

麻薬、毒薬、覚せい剤原料、向精神薬、造影剤、造影補助剤、神経破壊剤、生物学的製剤

4.6.7 その他データ表示

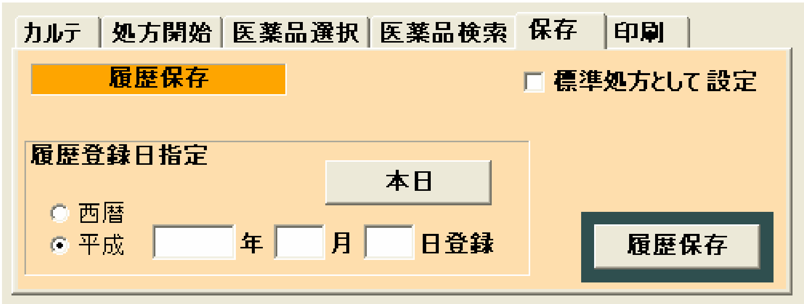
データベース中の諸データを表示します。

その他データには以下の項目があります。

HOT13 コード、HOT7 コード、JAN コード、ヨミガナ、レセプト1コード、レセプト2コード、薬品一般名、薬品販売名、薬品公示名、医薬品コード、収載方式、注射薬容量、薬価基準コード

4.7　保存メニュータブ

保存メニューは過去データの入力など、処方医薬品データを印刷せずに履歴保存する場合に使用します。（ラベルを印刷すると、履歴は自動保存されます。）



4.7.1　「履歴保存」ボタン

処方医薬品リストに登録された内容をデータベースの保存します。

保存後は登録作業を終了します。

4.7.2　履歴登録日指定

保存を行う場合、過去のカルテ情報登録の場合など、当日以外の日付を履歴保存日として指定して保存できます。（処方開始メニュータブの履歴参照によるリスト表示時の登録日となります。）

4.7.3　「本日」ボタン

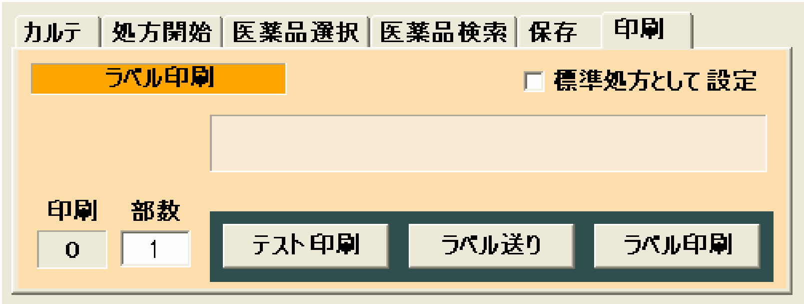
当日の年月日を履歴日付として設定します。

4.7.4　「標準処方として設定」チェックボックス

登録するカルテ番号の標準処方としてカルテ情報へ設定を行います。

ここで保存する内容が「処方開始」メニュータブの標準処方ボタンで呼び出される処方項目となります。

4.8 「ラベル印刷」メニュータブ



ラベル印刷処理を行います。

ラベルを印刷すると自動的に履歴保存されます。 保存の必要はありません。）

TM-L90 へラベル印刷を行います。

4.8.1 部数入力ボックス

部数を指定することで複数部数のラベルを印刷できます。

印刷表示部に印刷されるラベル枚数が表示されます。

部数の初期値は初期設定ファイルで指定できます。

4.8.2 ラベル印刷ボタン

ラベル印刷を開始します。

4.8.3 ラベル送りボタン

ラベルを 1 枚送ります。

4.8.4 標準処方として設定」チェックボックス

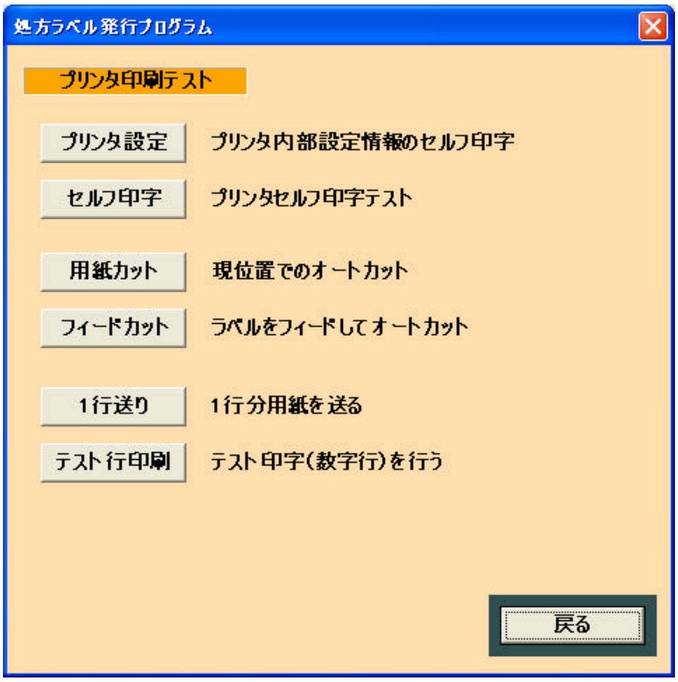
印刷するカルテ番号を、標準処方内容としてカルテ情報へ設定を行います。

印刷した内容が 処方開始」メニュータブの標準処方ボタンで呼び出される処方項目となります。保存の際の機能と同一です。

4.8.5 テスト印刷ボタン

テスト印刷ダイアログを表示します。

4.9 テスト印刷ダイアログ



プリンタのテスト印字を行います。

4.9.1 「プリンタ設定」ボタン

プリンタ内部情報を印字します。

これはプリンタの内部機能により印刷されます。

4.9.2 「セルフ印字」ボタン

プリンタセルフテストを実行します。

これはプリンタの内部機能により印刷されます。

4.9.3 「用紙カット」ボタン

現在の用紙位置でプリンタラベル紙の強制カットを行います。

ラベルの途中（糊位置）でもカットされます。

4.9.4 「フィードカット」ボタン

ラベルを次のカット位置まで連続送り（フィード）してカットを行います。

4.9.5 「1行送り」ボタン

印字を行わずに1印刷行分のラベルを送り（フィード）します。

4.9.6 「テスト印字」ボタン

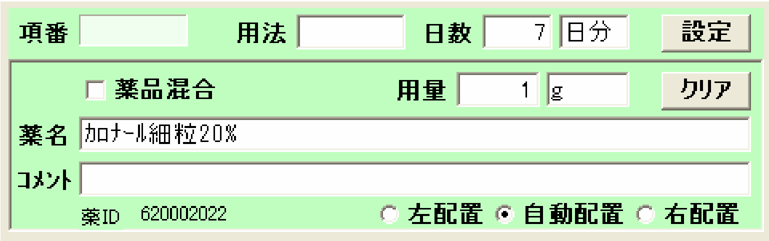
数字によるテスト印字行を印刷します。

4.9.7 「戻る」ボタン

印字テストダイアログを閉じて PSLM メイン画面へ戻ります。

4.10 処方入力ボックス

処方入力ボックスは、医薬品の名称や用法用量などの指定や変更を行います。



医薬品名のリストから選択された名称が入力された場合、 設定」ボタンで指定した医薬品リスト選択入力時の表示設定で指定された方法で登録されます。

4.10.1 項番表示

処方医薬品リストを選択した場合、登録されている項目番号が表示されます。

4.10.2 設定ボタン

医薬品リスト選択入力時の表示設定」ダイアログを開きます。

処方入力ボックスの各項目への入力方法を設定できます。

4.10.3 用法指定

用法を指定します。半角換算 7 文字入力できます。

4.10.4 日数指定

処方日数を指定します。数値と文字部が分かれています。数値と文字部合計で半角換算 7 文字入力できます。

単位部は文字指定できます。また、単位部をクリックするとリスト一覧からの選択もできます。

4.10.5 薬品混合」チェックボックス

指定する医薬品が手前で登録した医薬品と混合で調剤されることを指定します。

混合調剤を指定した場合、項番が手前で登録した医薬品となり、用法、日数が表示されません。 混合される最後の医薬品部に表示されます。)

またラベルの医薬品行間が表示されません。

4.10.6 用量指定

用量を指定します。数値と文字部が分かれています。数値と文字部合計で半角換算 7 文字入力できます。

単位部は文字指定できます。また、単位部をクリックするとリスト一覧からの選択もできます。

単位部は、医薬品ごとにデータベースで指定された単位が、基本情報として表示されるため、単位は必ずしも希望するものとならない場合があります。その場合、手入力かリストから選択入力してください。

また、詳細情報に薬 1 つの単位情報が表示されますので参照ください。

4.10.7 「クリア」ボタン

入力内容を削除します。

4.10.8 薬名指定

薬名称を指定します。1 行に半角換算で 32 文字登録できます。32 文字を超えた場合、最大 2 行まで入力できます。（半角換算最大 64 文字）注：折り返し部の全角漢字は次行へ送られます。

医薬品名は全角文字でデータベース登録されています。「医薬品リスト選択入力時の表示設定ダイアログ」で半角指定されている場合、リストクリックによる登録時に半角に変換されて入力されます。

4.10.9 コメント指定

用法の注意や指定事項などを記入します。

印字位置指定することができます。

1 行に半角換算で 56 文字(ラベル印字最大幅)登録できます。56 文字を超えた場合、最大 2 行まで入力できます。（半角換算最大 112 文字）

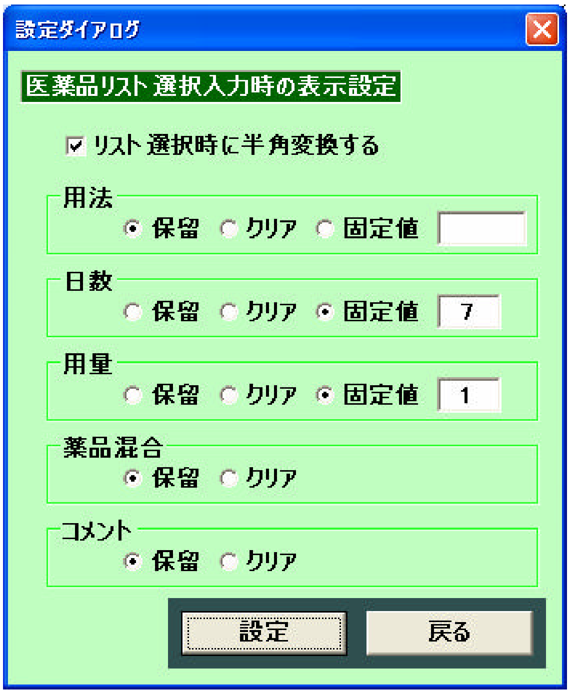
2 行にわたる場合は左づめ指定になります。

4.10.10 薬 ID 表示

医薬品をリストから選択登録した際、薬 ID が表示されます。

薬 ID が表示されている場合、薬 ID をクリックすると医薬品の詳細情報を検索して医薬品詳細情報表示を行います。

4.11　医薬品リスト選択入力時の表示設定」ダイアログ



医薬品名リストを選択して処方入力ボックスへ入力する際の方法を設定します。

日数や用量などの初期値や続けて同じ内容に設定したい場合に利用できます。

4.11.1　「リスト選択時に半角変換をする」チェックボックス

医薬品名は全角文字でデータベース登録されています。「医薬品リスト選択入力時の表示設定ダイアログ」で半角指定されている場合、リストクリックによる登録時に半角に変換されて入力されます。

半角入力とすることで、多くの薬品が 1 行でラベル表示が可能となります。

4.11.2　「用法」設定

保留　-　処方入力ボックスの用法欄の内容はそのまま保留されます。

クリア　―　リストデータが入力される際、用法欄はクリアされます。

固定値　―　リストデータが入力される際、ここで指定する内容が用法欄に設定されます。

4.11.3　「日数」設定

保留　-　処方入力ボックスの日数欄の内容はそのまま保留されます。

クリア　―　リストデータが入力される際、日数欄はクリアされます。

固定値　―　リストデータが入力される際、ここで指定する内容が日数欄に設定されます。

4.11.4 「用量」設定

保留　-　処方入力ボックスの用量欄の内容はそのまま保留されます。

クリア　―　リストデータが入力される際、用量欄はクリアされます。

固定値　―　リストデータが入力される際、ここで指定する内容が用量欄に設定されます。

4.11.5 「薬品混合」設定

保留　–　処方入力ボックスの薬品混合チェックボックスの内容はそのまま保留されます。

クリア　―　処方入力ボックスの薬品混合チェックボックスはクリアされます。

4.11.6 「コメント」設定

保留　-　処方入力ボックスのコメント欄の内容はそのまま保留されます。

クリア　―　リストデータが入力される際、コメント欄はクリアされます。

4.11.7 「設定」ボタン

設定内容を保存し終了します。

4.11.8 「戻る」ボタン

設定を行わずに PSLM メイン画面に戻ります。

4.12 処方医薬品リスト



処方登録された医薬品が追加されていきます。

登録数は最大 98 件（01..99）の医薬品です。

項番として①から⑳までは○付もじ、21以降は 2 桁の数字で表示されます。

一度に 6 項目の表示され、スクロールバーにより登録された全処方薬を表示することができます。

項番の奇数・偶数ごとに背景色が色分けして表示されます。

4.12.1 合計表示

登録されている医薬品数を表示します。

ラベルは印刷ラベル数を表示します。

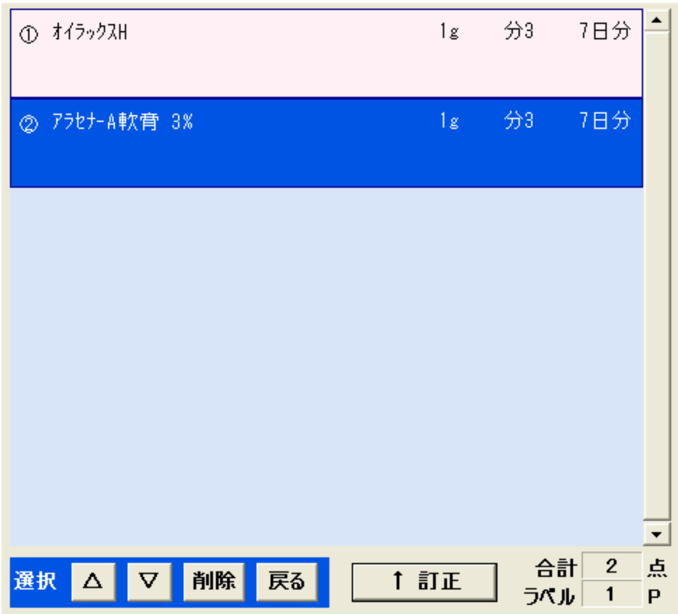
4.12.2 登録処方薬編集モード

処方薬をクリックすることで、選択医薬品がブルーバック表示され、編集モードとなり、選択された医薬品内容が「処方入力ボックス」へ入ります。

編集モードの際は選択ボタンが有効となります。

選択ボタンにより、選択医薬品の削除、登録位置の移動ができます。

編集モードは、戻るボタンもしくは選択医薬品をクリックにて再選択することで解除されます。



4.12.3 「△」「▽」ボタン

選択中の医薬品の登録位置を移動します。

薬品混合設定は保持されたまま移動するので、移動により混合状態が変化します。

4.12.4 「削除」ボタン

選択中の医薬品を登録削除します。

4.12.5 「戻る」ボタン

編集モードを終了します。

戻るボタンにより「処方入力ボックス」へのデータを残したまま編集モードを終了することができるので、内容を変更して追加登録することができます。

5　初期設定ファイル

実行プログラムと同じフォルダに初期設定ファイル「PSLM.INI」が存在します。
通常のインストールでは「Program Files\PSLM\」です。
PSLM.INI はテキスト形式のファイルですので、メモ帳やテキストエディタで変更することができます。

```
[Comm]
Inhibit=False
Port=COM16
Baudrate=38400
[Print]
Pages=1
[Database]
DBPSLM_DATA=DB\PSLM_DATA.mdb
DBPSLM_MST=DB\PSLM_MST.mdb
```

初期設定ファイルにて、以下の内容の設定が行えます。

5.1　[Comm]セクション

ラベルプリンタとの通信条件の設定を行います。
USB タイプも仮想シリアル COM として動作しますので通信条件の設定は必要です。

5.1.1　Inhibit

プリンタへの出力を禁止します。

プリンタが接続されていない場合、TRUE を設定します。

5.1.2　Port

接続 COM ポート番号を指定します。

5.1.3　Baudrate

通信速度を設定します。データ長は 8 ビット、ストップビットは 1 ビットに固定されています。

※DTS/DSR によるハードウェアハンドシェークを行いますので、専用のクロスケーブルが必要です。（TM-L90 は、Windows 標準の RTS/CTS ハンドシェークとは異なります。）

5.2　[Print]セクション

印字ページに関する設定を行います。

5.2.1　Pages

ラベル印刷部数の初期値を設定します。

ここで設定した枚数が、画面の印刷部数の初期値として表示されます。

5.3　[Database]セクション

5.3.1　DBPSLM_DATA

データ管理用データベース（PSLM_DATA.mdb）のパスを設定します。

5.3.2　DBPSLM_MST

医薬品マスタ用データベース（PSLM_MST.mdb）のパスを設定します。

6　印刷ラベル-印字管理情報

ラベル下には印字管理情報が印刷されます。

[P.ページ/ページ数]氏名　様（カルテ番号）発行者マーク 年月日-時分秒-連番 A 発行ソフト
バージョン

6.1　ページ/ページ数

印字中のラベルページ情報

6.2　氏名　様（カルテ番号）

氏名情報

6.3　発行者マーク

発行担当者記号を印字します。

6.4　発行日時

年月日-時分秒　　印刷時点の PC のカレンダ情報

6.5　連番

ラベルごとのユニークな連番を生成します。

6.6　バージョン

ラベル書式管理アルファベット 発行ソフト名バージョン

タイトル	処方箋用　薬ラベル発行プログラム Prescription Label Maker for TM-L90
初版発効日	2006 年 3 月 30 日
編集管理番号	5
版数	第 1.00 版
版管理日	2006 年 4 月 6 日
著作者	Naoya
管理ファイル	処方箋用薬ラベル発行プログラム g.doc
発行元	テクノベインズ株式会社 東京都文京区湯島 3-31-4 〒113-0034　ツナシマ第 1ビル 2階 電話:03-3832-7460 http://www.technoveins.co.jp